

試験問題

2022年5月18日(水)

試験時間：9:45-11:15(90分間)

1. 解答用紙は1問につき1枚使用し、各用紙(10枚)の左上に問題番号、右上に出席番号、氏名を記入すること。
2. 10問の解答を各用紙に簡潔に記述すること。
3. 不的確な記述は減点の対象となるので注意のこと。
4. 不正行為は取り立てて指摘はせず再試験とする。

1. 手術中の代表的な体温測定部位をその特徴とともに3つ述べよ。
2. 周術期に起こりうる認知機能障害を2つあげ、それぞれ特徴を説明せよ。
3. 産科危機的出血への対応ガイドラインについて
 - ① どのような所見で産科危機的出血を宣言するか説明せよ。
 - ② 産科危機的出血を宣言後の対応を述べよ。
4. 「脱分極性神経筋遮断薬」と「非脱分極性神経筋遮断薬」に分類される薬剤の一般名を一つずつ記せ。また挙げた「非脱分極性神経筋遮断薬」に関して、気管挿管を行う場合の初期投与量(mg/kg)と作用発現時間(分)、薬剤の特徴を2つ以上記せ。
5. 経食道心エコーでの、経胃中部短軸断面像を図示し、右冠動脈(RCA)、左前下降枝(LAD)、左回旋枝(LCX)の典型的な支配領域を大まかに示せ。
6. 器具を用いた気道確保法には、主に声門上器具(ラリンジアルマスク等)と気管挿管がある。器具を用いない気道確保と比較して、声門上器具と気管挿管の利点をそれぞれ挙げよ。
7. 小児の循環について
 - ① 心拍出量(mL/kg/min)の成人との差異を説明せよ。
 - ② その循環の特徴について、心室コンプライアンス、拡張終期の静止張力、1回拍出量、心拍数について触れながら、生理学的な観点から説明せよ。
8. 肥満患者に全身麻酔について
 - ① 非肥満患者に比べて問題となる点を、循環器系、呼吸器系、その他の点でそれぞれ2つ以上答えよ。
 - ② 上記の問題点の中から2つを選び、その対処法を答えよ。
9. 手術中の輸液には主に細胞外補充液が使用される。
 - ① 細胞外補充液の輸液製剤を一つ上げ、手術中に細胞外補充液を使用する理由を述べよ。
 - ② 手術中の輸液量が過剰になった際と過少になった際に発生する可能性がある合併症をそれぞれ一つずつ答えよ。
10. 片肺換気を行う際に用いるデバイスの名称を2つ答え、それぞれの利点・欠点について述べよ。

雑感

形式は例年通り記述式 10 問。

どんな問題がでるかは講義中に教えてもらえるので、講義を聞いていれば大丈夫。(ほのめかす程度で完全に教えてはくれない先生もいるが。) ただ久しぶりの記述式なのでしっかり記述の練習をすることをお勧めする。正直、過去問はあまりあてにならない。

再試 4 人